

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ①調布市立小・中学校の児童・生徒における学力・学習状況を把握し、施策の改善・充実に生かす。
- ②調布市立小・中学校教職員が、本調査の結果を踏まえ、授業改善に役立てる。

(2) 調査日と実施児童・生徒数

- ①令和5年4月18日(火)
- ②小学校 20校 第6学年 1,760名
中学校 8校 第3学年 1,390名

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
小学校：国語，算数
中学校：国語，数学，英語 (%) (%)
- ②質問紙調査
「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する調査

2 調布市教育プラン(令和5年度～令和8年度)との関連

(1) 施策及び主な取組

施 策2 【確かな学力の育成】 <主要事業 5 基礎的知識・技能，学習満足度の向上，学ぶ意欲の育成>

- 主な取組 ○ 少人数・習熟度別指導による個に応じた指導の充実を通じた確かな学力の育成
○ 一人1台端末の効果的な活用に向けたICT環境の計画的な整備・活用

施 策5 【魅力ある学校づくりの推進】 <主要事業 18 教職員の指導力・人権意識の向上>

- 主な取組 ○ 学習指導要領に対応した「授業改善推進プラン」に基づく取組の推進

(2) 成果指標

全国学力・学習状況調査(国語・算数(数学))における東京都の平均正答率を上回った各科目の合計ポイント数	校種	R8目標値	R4	R5
「主体的・対話的に学習活動に取り組んだ」と考えた児童・生徒の割合	小学校	7pt	4pt	3pt
	中学校	7pt	5pt	3pt
	小学校	90%	77.1%	83.1%
	中学校	90%	77%	81.7%

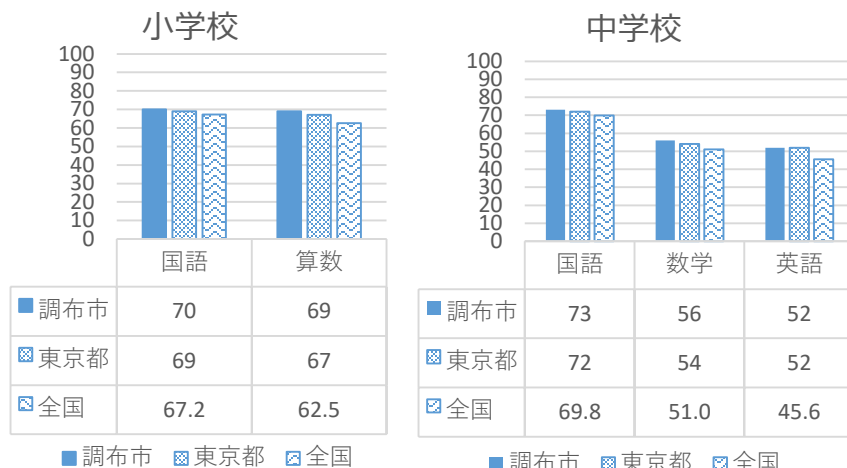
※成果指標の2項目目については、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」を合わせた平均値。

(3) 教育委員会の取組

- 「カリキュラム・マネジメント」の実現，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・教科等横断的な視点に立った校内研究及び研修の推進
 - ・一人1台端末の効果的な活用
 - ・授業改善に向けた校内研究及び研究推進校等の成果の普及

3 調査結果概況

平均正答率



調布市の傾向

- ・国語，算数・数学の平均正答率は全国及び東京都を上回っている。
- ・英語の平均正答率は全国を上回り，東京都と同一の値である。

国及び東京都と比べて差が大きかった内容の正答率

赤字：教科の内容別別に「国と市」「都と市」の正答率を比較した結果，正答率の差が最も大きかった数値を，赤字で示している。

小学校	内容	出題の趣旨	市	都	国	
国語	読むこと 思・判・表	目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	73.6	都+1.6pt	国+6.2pt	
		文章を読んで理解したことに基いて，自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	60.7	都+3.9pt	国+4.5pt	
	変化と関係 知・技	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。	58.3	都+2.1pt	国+12.3pt	
		示された棒グラフと，複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み，見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。	59.8	都+3.8pt	国+3.6pt	
中学校	国語	読むこと 思・判・表	文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。	60.1	都+6.0pt	国+10.1pt
			ある事柄が成り立つことを構想に基いて証明することができるかどうかをみる。	41.6	都+1.7pt	国+9.5pt
	数学	数と式 思・判・表	目的に応じて式を変形したり，その意味を読み取ったりして，事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。	67.3	都+4.1pt	国+8.5pt
			日常的な話題について，目的に応じて英語を聞き，必要な情報を聞き取るかどうかをみる。	72.2	都+1.8pt	国+11.1pt
英語	聞くこと 思・判・表	日常的な話題について，自分の置かれた状況などから判断して，必要な情報を聞き取るかどうかをみる。	50.8	都+4.1pt	国+9.6pt	
			70.4		61.1	

4 教科に関する調査から分かったこと

- 成果
- ▲ 課題
- 授業改善のポイント

小学校 国語

	平均 正答率 (%)	中央値 [14問中] (問)	話す・ 聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	言葉 (%)	情報 (%)
市	70	10	73.4	29.8	75.2	73.7	68.7
都	69	10	73.5	28.9	73.2	73.6	66.5
国	67.2	10	72.6	26.7	71.2	71.2	63.4

- 「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること[思・判・表(読むこと)]」の正答率が高い。
- ▲「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題[知・技(言葉の特徴や使い方に関する事項)]」の正答率が低い。
- 「書くこと」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向であることから、必要に応じて、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとって考えを深めやすく、相手にとってよく理解できる文章になることを実感できるように指導する。

小学校 算数

	平均 正答率 (%)	中央値 [16問中] (問)	数と 計算 (%)	図形 (%)	変化と 関係 (%)	データの 活用 (%)
市	69	12	72.3	56.4	77.2	69.8
都	67	11	71	54.8	75.8	67.3
国	62.5	11	67.3	48.2	70.9	65.5

- 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること[知・技(変化と関係)]」の正答率が高い。
- ▲「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題[知・技(数と計算)]」の正答率が低い。
- 「図形」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向であることから、具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。

「中央値」…対象範囲内の全ての児童・生徒を得点順に並べたとき、ちょうど真ん中にいる児童・生徒の得点のこと。

参考文献：令和5年度全国学力・学習状況調査の結果概要（文部科学省）

中学校 国語

	平均 正答率 (%)	中央値 [15問中] (問)	話す・ 聞く (%)	書くこと (%)	読むこと (%)	言葉 (%)	情報 (%)	言語文化 (%)
市	73	12	86.3	68.1	70.4	69.3	67.3	72.9
都	72	12	84.4	66.8	67.2	69.6	66.2	73.1
国	69.8	11	82.2	63.2	63.7	67.5	63.4	74.7

- 「事象や行為、心情を表す語句についての理解[知・技(言葉)]」の、正答率が高い。
- ▲「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題[知・技(我が国の言語文化に関する事項)]」の正答率が低い。
- 「情報」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向であることから、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に「話す・聞く・書く・読む」場面で活用できるように指導する。

中学校 数学

	平均 正答率 (%)	中央値 [15問中] (問)	数と式 (%)	図形 (%)	関数 (%)	データの 活用 (%)
市	56	9	68.8	40.2	56.3	50.3
都	54	8	66	39.2	54.3	50.4
国	51	8	63	33.2	51.2	48.5

- 「問題場面における考察の対象を明確に捉えること[知・技(数と式)]」の正答率が高い。
- ▲「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題[知・技(データの活用)]」の正答率が低い。
- 「図形」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向であることから、ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現できるように指導する。

中学校 英語

	平均 正答率 (%)	中央値 [17問中] (問)	聞くこと (%)	読むこと (%)	書くこと (%)
市	52	9	64.9	57.7	29.6
都	52	9	64.7	57.2	29.6
国	45.6	7	58.4	51.2	23.4

※「話すこと」調査の結果においては、文部科学省は、当日実施校の結果から推定される全国値のみを公表することから、調布市の結果は反映していない。

- 「情報を正確に聞き取ることができること[知・技(聞くこと)]」の正答率が高い。
- ▲「日常的話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題[思・判・表(書くこと)]」の正答率が低い。
- 「書くこと」の問題は、他の項目に比べ平均正答率が低い傾向であることから、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行う工夫をする。その際、理由を考えさせたり、生徒の発言に対して教師が理由を尋ねたりするといった取組を充実させる。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

※ それぞれ1が「当てはまる」、2が「どちらかと言えば当てはまる」、3が「どちらかと言えば当てはまらない」、4が「当てはまらない」になっている。また、肯定的回答の割合は、1と2の割合の合計を表している。

【児童・生徒質問紙】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	82	37.3	44.7	14.9	2.9	80.8	33.6	47.2	16.2	2.9
	東京都	78.3	32.9	45.4	17.7	3.9	79.4	30.4	49.0	16.9	3.5
	全国	78.8	30.5	48.3	17.7	3.4	79.2	30.4	48.8	17.0	3.6

【学校質問紙】 児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	85	10.0	75.0	15.0	0.0	100	12.5	87.5	0.0	0.0
	東京都	89.5	23.1	66.4	10.1	0.3	89.6	21.0	68.6	10.4	0.0
	全国	88.9	21.4	67.5	10.8	0.3	88	19.2	68.8	11.8	0.2

【児童・生徒質問紙】 学級の友達（児童・生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	84.1	44.2	39.9	11.6	3.0	82.5	37.1	45.4	11.1	3.5
	東京都	81.5	40.7	40.8	13.5	3.8	80.1	34.6	45.5	13.7	3.8
	全国	81.8	38.6	43.2	13.8	3.4	79.7	34.3	45.4	14.1	4.2

【学校質問紙】 児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	95	15.0	80.0	5.0	0.0	100	0.0	100.0	0.0	0.0
	東京都	85.1	19.8	65.3	14.6	0.2	86.8	25.3	61.5	12.6	0.5
	全国	83.4	17.4	66.0	16.3	0.2	86.2	20.3	65.9	13.5	0.2

【児童・生徒質問紙】 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	79.5	35.8	43.7	16.6	3.7	74	29.4	44.6	21.2	4.2
	東京都	75.3	32.5	42.8	19.4	5.1	70.8	23.8	47.0	23.4	5.6
	全国	74.4	28.3	46.1	20.9	4.6	69.1	22.7	46.4	24.7	5.8

【学校質問紙】 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	85	15.0	70.0	15.0	0.0	100	0.0	100.0	0.0	0.0
	東京都	88	19.9	68.1	11.9	0.0	79.5	15.2	64.3	20.4	0.0
	全国	85.6	18.3	67.3	14.3	0.0	78.6	14.0	64.6	21.2	0.1

調査結果のポイント

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国・都より高い。また、学校の回答は、小学校では全国・都より低く、中学校では全国・都より高い。
- 「話し合う活動を通して考えを広げたり、深めたりすることができるか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国・都より高い。
- 「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国・都より高い。
- 「各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かすことができるような機会を設けたか」との質問に肯定的に回答した学校の割合は、小学校では全国より高く都より低い。中学校では全国・都より高い。

【ICTを活用した学習に関する取組状況】

※ それぞれ1が「ほぼ毎日」、2が「週3回以上」、3が「週1回以上」、4が「月1回以上」、5が「月1回未満」になっている。また、肯定的回答の割合は、1と2と3の割合の合計を表している。

【児童・生徒質問紙】 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		小学校					中学校						
		肯定的回答	1	2	3	4	5	肯定的回答	1	2	3	4	5
調布市	調布市	91.8	31.9	39.4	20.5	5.7	2.4	97.8	38.9	44.0	14.9	1.4	0.8
	東京都	89.6	33.2	35.5	20.9	7.4	2.8	90.5	30.5	35.4	24.6	7.1	2.2
	全国	86.3	28.2	34.2	23.9	9.8	3.7	87.5	28.1	33.0	26.4	9.6	2.7

※ それぞれ1が「ほぼ毎日」、2が「週3回以上」、3が「週1回以上」、4が「月1回以上」、5が「月1回未満」になっている。また、肯定的回答の割合は、1と2と3の割合の合計を表している。

【学校質問紙】 児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。		小学校					中学校						
		肯定的回答	1	2	3	4	5	肯定的回答	1	2	3	4	5
調布市	調布市	100	55.0	45.0	0.0	0.0	0.0	100	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	東京都	99.8	74.5	20.5	4.8	0.2	0.0	98.6	67.3	21.2	10.1	0.9	0.5
	全国	99.0	65.2	25.4	8.4	0.9	0.1	97.7	62.6	24.1	11.0	1.9	0.3

調査結果のポイント

- 「授業で、ICT機器をどの程度使用したか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国・都より高い。

【個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する取組状況】

※ それぞれ1が「当てはまる」、2が「どちらかと言えば当てはまる」、3が「どちらかと言えば当てはまらない」、4が「当てはまらない」になっている。また、肯定的回答の割合は、1と2の割合の合計を表している。

【児童・生徒質問紙】 自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	82.5	36.3	46.2	12.9	4.4	77.1	24.3	52.8	17.7	4.5
	東京都	80.2	35.7	44.5	14.8	4.9	74.3	21.7	52.6	20.1	5.2
	全国	82.9	37.3	45.6	13.3	3.8	74.9	22.6	52.3	19.7	5.0

【学校質問紙】 学習指導において、児童・生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。		小学校				中学校					
		肯定的回答	1	2	3	4	肯定的回答	1	2	3	4
調布市	調布市	95.0	20.0	75.0	5.0	0.0	75.0	25.0	50.0	25.0	0.0
	東京都	94.6	30.1	64.5	5.4	0.0	91.8	25.3	66.5	8.1	0.0
	全国	93.1	27.8	65.3	6.8	0.0	90.9	24.6	66.3	9.0	0.1

調査結果のポイント

- 「自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校では全国より低く、都より高い。中学校では全国・都より高い。
- 「学習指導において、児童・生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか」との質問に肯定的に回答した学校の割合は、小学校では全国・都より高い。中学校では全国・都より低い。